

平成 14 年 2 月 8 日

大阪証券取引所ナスダック・ジャパン市場

平成 14 年 3 月期第 3 四半期の業績等の概況

上場会社名 株式会社ビーマップ
 (コード番号 4 3 1 6)
 本店所在地 東京都北区王子一丁目 6 番 8 号
 安田生命王子ビル
 問 合 せ 先 執行役員 社長室長 ^{たおもと} 埴本泰隆
 TEL 03 (3919) 3172

1 業 績

記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(1) 平成 14 年 3 月期第 3 四半期 (平成 13 年 4 月 1 日 ~ 平成 13 年 12 月 31 日) の業績

	平成 14 年 3 月期 第 3 四半期 (9 ヶ月累計)	対前年同 期増減率	平成 13 年 3 月期 第 3 四半期 (9 ヶ月累計)	参 考 前期 (通期)
	千円	%	千円	千円
売 上 高	448,769	28.2	350,155	512,079
営 業 利 益	95,032	1,779.5	5,056	34,612
経 常 利 益	79,969	1,117.6	6,567	48,003

- (注) 1 . 前年同四半期 (9 ヶ月累計) の数値に関しましては、四半期決算を行っておりませんが、月次の数値を参考にしております。
 2 . 当四半期及び前年同期に係る数値については公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

(2) 事業分野別の売上高内訳

	平成 14 年 3 月期 第 3 四半期 (9 ヶ月累計)		対前年 同期増 減率	平成 13 年 3 月期 第 3 四半期 (9 ヶ月累計)		参 考 前期 (通期)	
	金 額	構 成 比		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比
	千円	%	%	千円	%	千円	%
交通関連分野	254,707	56.8	66.8	152,703	43.6	268,010	52.3
位置情報インフラ提供分野	62,501	13.9	134.4	26,659	7.6	38,440	7.5
生活情報分野	57,668	12.9	61.5	149,737	42.8	178,881	35.0
次世代インフラ分野	25,200	5.6	-	-	-	-	-
そ の 他 分 野	48,692	10.8	131.3	21,055	6.0	26,747	5.2
合 計	448,769	100.0	28.2	350,155	100.0	512,079	100.0

- (注) 1 . 前年同四半期 (9 ヶ月累計) の数値に関しましては、四半期決算を行っておりませんが、月次の数値を参考にしております。
 2 . 当四半期及び前年同期に係る数値については公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

(3) 主な資産・負債の変動について

項 目	平成 14 年 3 月期 第 3 四半期末	増減額	前期末 (平成 13 年 3 月 31 日)
(資 産)	千円	千円	千円
現金及び預金	371,146	104,282	266,864
売 掛 金	228,270	23,803	204,467
有 価 証 券	-	110,378	110,378
仕 掛 品	36,503	20,039	16,464
工具器具備品	30,011	7,758	22,252
(負 債)			
買 掛 金	21,382	21,921	43,304
未払法人税等	35,576	28,652	6,924

(注) 1 . 項目ごとの変動額が総資産の 1 %を超えるものを記載しております。

(注) 2 . この報告における当四半期の数値については公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

2 業績の概況

(1) 事業分野別活動状況

当社は、平成 13 年 3 月期まで、事業分野を「交通関連分野」「位置情報インフラ提供分野」「生活情報分野」「その他情報配信分野」の 4 つに分類しておりましたが、当期より上記に加えて「次世代インフラ分野」の収益が計上されたことにより 5 つの事業分野となりました。各事業分野での活動状況は下記の通りです。

「交通関連分野」：J R 東日本企画向けの「J R トラベルナビゲータ」に関する開発・運営については、従来に引き続きサービスを行っております。i - m o d e 等キャリアの有料会員も堅調な伸びを見せており、ロイヤリティ収入もそれに合わせて伸びております。また、交通関連分野の J R 東日本企画向け以外の横展開として、民鉄向けサービスを展開しており、大手民鉄向け観光ナビを納品いたしました。

「位置情報インフラ提供分野」：数社に対し、自己位置取得エンジン「ここ N a v i 」を使用許諾いたしました。また、大手地図会社向けに自己位置取得エンジンの開発キットを開発いたしました。今回開発したのは、P C 版、P D A 版 (W i n C E ・ ザウルス O S ・ p a l m O S) に搭載されるもので、N T T ドコモグループ・K D D I グループ・A S T E L グループ等のキャリアに対応したものです。

「生活情報分野」：P D A 向け情報サイト「モバイルアイ」、読売新聞社との共同事業である「読売トクトク情報」について、引き続き運用・保守を行っております。今年度は、運用フェーズに入っており、前年度と比較すると開発案件が少なくなっているため、売上自体は少なくなっております。

「次世代インフラ分野」：上半期に開発いたしました J-PHONE 向けアット写メールの運用を開始いたしました。アット写メールサービスは、J-PHONE が運営している写メールサービスの付加機能であり、写メールとは異なるサービスです。写メールは J-PHONE が運営するサービスで、J-PHONE のカメラ付き携帯電話で撮影した画像を他の J-PHONE の携帯電話へ送信するサービスです。これに対しアット写メールは J-PHONE のカメラ付き携帯電話で撮影した画像を i モードや EZweb 等の携帯電話キャリアの端末に送信するもので、当社のサービスであります。

「その他情報配信分野」：収益状況を見ながら、コンテンツの入れ替えを行っております。ゲームコンテンツに関わる開発および運用が順調のため、当該比率が増しております。

(2) 業績の概況(平成13年4月1日~平成13年12月31日)

売上高

「交通関連分野」「位置情報インフラ提供分野」「その他情報配信分野」については、サービスメニューの増加と既存クライアント以外へのサービス提供(横展開)を強化した結果、前第3四半期と比較して増収となりました。また、「次世代インフラ分野」が立ち上がったことも増収に貢献しております。一方、「生活情報分野」については、新規プロジェクトに遅れが生じており、前第3四半期と比較して減収となりました。以上により、合計額の売上高は、448,769千円となりました。

営業利益

当第3四半期における営業利益は、95,032千円となり、前第3四半期5,056千円と比較して、89,976千円の増加となりました。これは、売上高増加に加え、利益率の高いサービスを行ったことが主な理由であります。

経常利益

当第3四半期における経常利益は、79,969千円となりました。当第3四半期までの営業外損益の主なものとして、営業外収益は雇用開発助成金を6,814千円、営業外費用は株式公開費用を21,205千円計上しております。

3 当期の見通しについて

当社は新規分野への積極的な進出を図ることで収益の増大を目指しており、現在、新規分野への事業実現に向けて準備を進めております。しかし、新規分野での事業成功の可否や収益・利益を見積もることは非常に困難であり、加えて業歴が浅く、現状小規模である当社が、新規分野での予想値を織り込んで業績見通しを行うと、業績見通しと実績とに大きな乖離が生じる可能性があります。したがって、業績見通しを行うことで、かえって投資判断をミスリードしてしまう可能性があるために、当社としては当面の間、業績予想の開示を行わない方針であります。

4 その他

平成14年1月30日付けで1,000株の公募増資を行った結果、資本金は72,250千円、資本準備金は160,250千円増加し、発行済株式数は12,340株となっております。

以上